

### 「第3回 金杉台中学校に関する地域説明会」会議録

- 1 開催日時 令和元年11月30日（土）9時30分～11時10分
- 2 開催場所 金杉台中学校体育館
- 3 参加人数 27人

#### 【司会】

皆様、おはようございます。初めに資料等の確認をいたします。6種類ございます。「資料1 第3回金杉台中学校に関する地域説明会」、「資料2 地域の自治会連合会との意見交換会の開催について」、「資料3 保護者アンケート集計結果報告」、「資料4 現在の通学区域（学区）と見直し案」、「資料5 第2回金杉台中学校に関する地域説明会でいただいた質問に対する回答」と「ご意見等記入用紙」になります。不足はございませんでしょうか。

続きまして、皆様にお願いがございます。会の進行上、携帯電話、スマートフォン等をお持ちの方は、マナーモードにさせていただくか、電源をお切りいただくよう御協力をお願いいたします。また、本日の説明会の終了時刻は、11時を予定しております。学校をお借りしておりますので、限られた時間となりますが、御理解いただきますようお願いいたします。また、体育館、床の維持のため、椅子はできるだけ引きずらないよう意識していただければと思います。

なお、本日の説明会に当たり、金杉台中学校の校長先生をはじめ、金杉台中学校には、御協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

それでは、ただいまより「第3回金杉台中学校に関する地域説明会」を始めます。はじめに、船橋市教育委員会管理部長より御挨拶申し上げます。

#### 【管理部長】

皆さんおはようございます。本日は、寒い中、また朝早い中説明会に御参加いただきましたこと、誠にありがとうございます。それから、保護者の皆様にはアンケートに御協力いただきまして誠にありがとうございました。さて、年々生徒数が減少傾向にありますこの金杉台中学校でございますけれども、平成29年度から、今後のあり方について検討を始めまして、3年目ということになります。現時点では、教育委員会は御滝中学校との統合が望ましいのではないかとということで検討を進めているところではございますけれども、統合とするか、あるいは学区の見直しなどを行いまして存続とするか、最終的に教育委員会として判断させていただく前には、やっぱり地域の皆様方の御意見を伺い、意見交換をさせていただくことが非常に大切なことであると考えております。今日は、今年行いました町会自治会の皆様との意見交換会、それから保護者アンケートの結果の御報告をさせていただきまして、またそのアンケートの中でお寄せいただきました御意見、御質問に対しまして、教育委員会としてどう考えているのかということをもっと御説明させていただきまして、皆様からいろいろ御

意見をいただきたいと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。

【司会】

次に、出席職員の紹介を、自己紹介で行います。向かって左側から紹介をお願いいたします。

(出席者自己紹介)

【司会】

それでは、次第に従い進めさせていただきます。本日の説明会は、会議録を作成いたします関係上、質疑応答等を録音させていただきます。御承知ください。皆様方には、録音・録画・写真撮影はお控えくださいますようお願いいたします。

それでは、説明に移らせていただきます。説明は、表題が「第3回金杉台中学校に関する地域説明会」という資料にて行います。スクリーンに投影されているものになります。主な内容としましては、これまでの検討経過、9月に実施しました「保護者アンケート」の集計結果の報告をした後、アンケートの自由記述欄に寄せられた意見や不安について、特に多かった内容について、各所管課より教育委員会の見解や現状の説明等をさせていただきます。

【教育総務課長】

それでは、教育総務課より、金杉台中学校に関する検討経過について御説明いたします。お手元の資料1か、前面スクリーンのどちらか見やすいほうをご覧ください。

ではまず、3ページ。金杉台中学校の今後のあり方については、教育委員会として、平成29年秋から関係者に現状のヒアリングを始めるなど、これまで、検討を進めてまいりました。詳細はホームページに掲載してございます。

続いて、4ページ。今年3月の第2回地域説明会では、金杉台中学校存続を求める陳情が教育委員会宛に提出されました。陳情の願意は、「金杉台中学校を存続させることを前提として、住民と広く意見を交換することを願います」でございましたが、7月の教育委員会会議で審議され、全会一致で不採択となっております。

続いて、5ページ。陳情の審議では、教育委員から、前段の「金杉台中学校を存続させることを前提として」に関し、「今の状態が続くのであれば、子供たちの教育環境を考えると、存続することが前提というのは困難である」。一方、後段の「住民と広く意見交換を願います。」に関しては、「今後、丁寧に地域や保護者の方々の意見を聞いて検討を進めるように」との意見が出されていることから、町会・自治会との意見交換会の開催及び保護者アンケートを実施いたしました。

続いて、6ページ。金杉台中学校の学区にある二つの自治会連合会に意見交換会の開催を打診させていただいた結果、二和地区自治会連合会からは、「状況は理解しており、教育委員会の考えている内容で進めていくことに了承する。改めて意見交換会

を開催するには及ばない。」とのことから、こちらは、意見交換会は行われておりません。

また、高根・金杉地区自治会連合会につきましては、意見交換会を9月28日土曜日に開催いたしました。概略について御説明いたしますけれども、お手元の資料2をご覧ください。A4表裏の資料でございます。当日は、金杉台中学校の現状と検討結果を説明した後、質疑応答・意見交換をいたしました。その中で、学区・推計・宅地開発に関するものとして「金杉台団地の建て替え、日大の土地、戸建て分譲など、子供が増える可能性もあるので、教育委員会とまちづくりの関係課が連携してほしい」といった意見、また、統合に関するものとしては、「統合することは経済的に見ても当然。ただ、一方的な統合決定は避けてほしい」また、「統合となった場合の御滝中学校の校舎の不足を心配する」といった意見、次に、跡地に関するものとして、防犯上の観点から「統合後、校舎が無人化となる期間をなるべく短くしてほしい」といった意見が出ております。

続きまして、資料1に戻っていただきまして、7ページ。ここから、保護者アンケートの集計結果の御報告となります。8ページをご覧ください。アンケートの回収結果です。対象者813人に対し、回収数は648人。学校別の回収数などはこちらのとおりです。たくさんの方からの御回答があり、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

続いて、9ページは、対象となる小学生が進学先として選択した中学校をまとめたもので、金杉台中学校を選択した人数約1割、また、御滝中学校約7割を占めています。

続いて10ページは、進学先の中学校を指定学区と選択地域に分けてまとめたもので、指定学区の児童は、金杉台中学校・御滝中学校をおおむね半々で選択する結果となっており、また、選択地域の児童は、こちらのとおり、多くの人数が御滝中学校を選択する結果となっております。

続いて、11ページは、金杉台中学校の5月1日現在の生徒数推計に、アンケートの結果を反映させた表でございます。推計では、1学年1学級が続くと見ておりますが、アンケート結果からもその状況が続き、生徒数の増加は見られないものとなっております。

続いて、12ページから17ページにかけては、中学校を選択した理由や重視した点の上位五つを学校別にまとめました。その結果、金杉台中学校の在籍者や進学希望者が中学校を選択した理由や重視した点につきましては、「少人数のため、先生がきめ細かく見てくれる」、「様々な活動の場面で、リーダーや学校の代表を務める機会が期待できる」など、小規模校で、特に少人数であることのメリットを挙げる回答が多いことがわかりました。

一方、御滝中学校の在籍者や進学希望者の選択理由・重視した点は、「様々な活動の場面で、多くの仲間から刺激を受け、意欲が高まる」や、「部活動の選択肢が多い」など、標準規模校以上で見られるメリットを挙げる回答のほか、「親しい友だちと同じ中学校に行きたい」が多いことがわかりました。

また、両校の在籍者や進学希望者に共通して重視されている点として、「自宅からの通学距離が近い」が挙げられております。それぞれの結果につきましては、後程、御確認ください。

続いて、ページは飛びますが、18ページをお願いします。今回のアンケートでは、回答者数648人のうち、190人から自由記述による御意見をいただいております。

結果は19ページになります。こちらは、自由記述欄に寄せられた「統合に反対・不安」の御意見の集約といたしまして、まず1点目、「金杉台中学校の少人数制の良さがなくなる」。2点目、「通学区域・学区を見直したほうがいい」。3点目、「御滝中学校でこれ以上受け入れられるのか?」。4点目、「教員の目が届かなくなるのではないか?」。5点目、「御滝中学校では不登校やいじめが多いのではないか?」。6点目、「発達障害やグレーゾーンの子は御滝中学校では不安がある」。7点目、「金杉台中学校の部活動は御滝中学校でもできるのか?」。最後、8点目、「学校がなくなったら跡地はどうなるのか?」。などとなっております、これから、それぞれこの八つの御意見について、教育委員会の考え方を担当から御説明いたします。

#### 【教育総務課長】

それではまず、20ページ。統合により、「金杉台中学校の少人数制の良さがなくなる」との御意見について、教育総務課から御説明いたします。学校規模の基準につきましては、国の標準とする学校規模は小・中学校ともに12学級以上18学級以下となっており、船橋市では小・中学校ともに12学級以上24学級以下とされております。続いて、21ページ。今年5月1日現在で、全校生徒数が58人、推計においても、1学年1学級、全校で3学級が続く見込みの金杉台中学校は、市の基本方針で定める小規模校に当たり、単学級の学年が継続的に発生することが予想される場合、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について、検討を始めることとされております。教育委員会といたしましては、小・中学校では、教職員、児童生徒ともに、一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えておりますので、今後、ますます少子化が進む中、金杉台中学校を少人数制の小規模校として残していく考えはございません。以上です。

#### 【学務課長】

学務課です。お願いいたします。資料の22ページをご覧ください。「通学区域を見直したほうがいい」という御意見について、御説明させていただきます。

まず見直しのお話をさせていただく前に、通学区域制度について御説明いたします。資料にも書いてございますが、学校教育法施行令の規定により、市町村教育委員会は、就学予定者が就学すべき学校を指定することとなっております。船橋市教育委員会では、あらかじめ、各学校の通学区域を設定し、その通学区域に基づき、就学すべき学校を指定しております。通学区域は、学校規模、地理的要因、地域コミュニティとの関係などを総合的に勘案して、学校ごとに設定しております。住んでいる場所で通学

する学校が決まりますので、自由に選択することができませんが、23 ページの資料にございますように、平成9年、文部省から、通学区域制度の弾力的運用についてという通知が出されております。本市におきましても、弾力的運用といたしまして、資料の24 ページにございますように、地域の実情等により、主に隣接する学校へも通学できるように設定している地域、選択地域を設定したり、子供や家庭の個々の事情等を理由に通学する学校を変更できる通学指定校変更の取扱い基準を設けているところでございます。

続きまして25 ページをご覧ください。通学区域の見直しについての御説明でございます。お手元の資料は白黒印刷ですので、カラーでご覧になりたい方は、正面のスクリーンか資料4をご覧ください。まず、現在の通学区域です。金杉台中と御滝中の間に、広く選択地域を設定しています。カラーでは水色の部分、白黒では薄く色付けをしている部分でございます。金杉台中学校が全学年1学級になったことから、平成22年度に、御滝中の通学区域の中で金杉台中も選択できる地域を広げました。その効果もあってか、学級数が増えた年度もありましたが、平成26年度からは、全学年1学級という状況でございます。

続きまして、26 ページをご覧ください。見直し案の①でございます。これは選択地域の中で、金杉台中、御滝中からのそれぞれ通学距離がおおむね同じくらいとなる範囲までを、金杉台中学校の通学区域に変更する案でございます。カラーではオレンジ色の部分、白黒では濃く色を付けた部分でございます。なお、少数ではありますけれども、旭中も含めた3校の選択地域もありますので、そこを金杉台中と旭中2校の選択地域と変更する案になっていきます。カラーでは緑色の部分でございます。この変更をした場合の推計では、学級数が増えた後に減少に転じ、また全学年1学級になってしまうという見込みとなりました。そこで、変更する範囲を更に広げたものが、27 ページ、見直し案②でございます。アンケートにおきましても、選択地域を金杉台中学校のみの通学区域にしてはどうか。金杉台中と御滝中の生徒数を均等したらどうかというような御意見をいただいております。ただ、前提といたしまして、金杉台中学校は御滝中学校に比べて施設が小さく、完全に両校の生徒数を均等化してしまいますと、金杉台中の教室が不足するということがございます。そのため、施設の大きさも考慮いたしまして、変更の範囲を選択地域にプラスしまして、御滝中の指定学区の一部まで広げました。カラーでは、ピンク色の部分と青色の部分でございます。白黒では色付けをした部分でございます。推計では、学級数、生徒数が増え、2年間ほど12学級になった後に、減少に転じる見込みでございます。案①に比べて学級数、生徒数は増加の傾向にあります。変更範囲を広げた分、デメリットも多くなってしまいます。御滝中学校は、通学区域の端に位置するようになり、金杉台中学校の通学区域が御滝中学校を取り囲むようになります。御滝中学校と隣接した場所でも、金杉台中学校の通学区域となります。また、変更範囲を広げるほど、金杉台中学校までの通学距離は遠くなり、生徒の通学の負担が増え、複数の小学校の通学区域を分けてしまうこととなります。通学区域は長い年月をかけ、地域に定着しておりますので、その変更につ

きましては、生徒、保護者、学校やそこに居住している方々の生活や地域のつながりにも影響を与えますが、その影響を考えますと、ただいま説明させていただいたように、デメリットがかなり多い案になってしまいます。以上のことから、教育委員会といたしましては、この変更案は好ましくないというふうに考えております。通学区域については以上でございます。

#### 【教育総務課長】

続きまして、28 ページ、お願いいたします。「御滝中学校でこれ以上生徒を受け入れられるのか？」との御意見につきまして、教育総務課より御説明いたします。まず推計でございますが、生徒数の推計は、転入、転出、転居等の社会増減のほか、最近の宅地開発の状況も反映させております。その上で、御滝中学校につきましては、次のページで説明いたしますが、令和5年くらいまで生徒数が増加すると見込んでおります。しかし、現在の施設で最大28学級まで受け入れが可能と考えております。続いて、29 ページをお願いいたします。御滝中学校が金杉台中学校と統合した場合、こちら、表にございますとおり、令和3年、4年、5年、学級数が28、生徒数はご覧のとおりの数となっております。このように、最大28学級となり、ピーク前後の年度においても普通教室は足りると見込んではおりますが、ほかの施設面や設備面で十分か検討するとともに、学校運営面で問題がないか学校とも協議し、必要な対応をした上で受け入れてまいりたいと考えております。そして、日大のグラウンドについては、売却の予定がない旨、大学に確認しております。また、金杉台団地については、現時点では、建て替え予定はない旨をURに確認しております。説明は以上でございます。

#### 【学務課長】

続きまして、「教員の目が届かなくなるのでは？」ということにつきまして、学務課より御説明させていただきます。資料は30 ページでございます。市内公立小中学校につきましては、千葉県教育委員会の公立小中義務教育学校学級編制基準及び公立小中義務教育学校定数配置基準に基づき、学級を編制し、教職員を配置しております。その基準に基づきますと、今年度の金杉台中学校の学級数は3学級で、教職員数は12名となり、御滝中学校の学級数は24学級で、教職員は45名となっております。なお、この教職員数には、市費負担の臨時職員の数は含んでおりません。続きまして、31 ページ、教職員の配置につきましては、各学校の校長とのヒアリングを通し、年齢、教科定数、部活動等を考慮しながら、市内全体のバランスを見て配置しております。教員の目が届かなくなるのではという御意見につきましては、金杉台中学校と御滝中学校を比較した場合、金杉台中学校は、1学級当たりの生徒数が少ないので、教職員一人当たりの生徒数という視点で捉えますと、教職員の目が生徒一人一人に行き届きやすい環境にあると言えます。しかしながら、千葉県の基準に基づいた学級編制、教職員定数でありますので、御滝中学校が、極端に教職員一人当たりの生徒数が多いということではございません。市内の多くの中学校同様、同一教科を担当する教職員

が複数在籍する点を生かし、教材・教具の工夫や、主体的、対話的で深い学びの視点でも授業改善に取り組んでおります。また、多くの教職員の目で、生徒一人一人をきめ細かく見ていけるよう、教職員間で情報共有を図りながら組織的に生徒指導や特別支援教育の校内体制の充実に取り組んでいるところでございます。説明は以上でございます。

#### 【指導課長】

続きまして指導課からでございます。よろしくお願いたします。「御滝中学校では、不登校やいじめが多いのでは？」についてお答えいたします。32 ページから 35 ページまでが不登校について、36、37 ページがいじめについてです。まず不登校についてです。不登校傾向の生徒数につきましては、全国同様、船橋市におきましても増加傾向にあります。各中学校に不登校傾向の生徒はおりますが、船橋市の不登校率は全国に比べ、低い状況であります。また、規模の大きい学校だから不登校率が高い、規模の小さい学校だから不登校率が低いというような、学校規模と不登校率に相関関係はないというふうに考えております。ですから、御滝中学校の不登校率が他に比べて飛び抜けて高いということではありません。続きまして 33 ページからです。本市の対応について具体的に御説明いたしますと、中学校における不登校支援教室では、学級と同様に、時間割を決めて対応しております。その中で、不登校支援教室担当教員が中心となって、各教科担任が学習支援を行っているところです。校内の全職員で支援教室の状況を共有し、支援に複数の教職員が関わる中で、生徒との人間関係を深めつつ、悩みや不安など本人の相談に耳を傾け、その中で学校生活や友人との関わり、進路等についての支援及び相談を行っております。不登校傾向の生徒につきましては、友人関係を巡る問題、学業不振、進路に関わる不安、教職員との関係を巡る問題等、及び学校に係る状況など様々な理由が考えられます。学校における取組についてですが、教職員が生徒と良好な人間関係作りに努めること。また、不登校傾向の生徒が抱えている学校生活の悩みや不安を取り除いてあげることが大切であると考えております。そのためには、年間複数回行う教育相談や、気になる生徒に対して随時行う相談、スクールカウンセラーとの面談等、教育相談体制の充実を図っているところであります。また、生徒一人一人の思いに寄り添って耳を傾けること、学校生活、アンケートや日々の生活記録ノートなどから悩みや不安を持っている生徒が出している信号を見落とさないこと。教科担任制により、複数の教職員が関わる、その良さを生かし、心配な生徒の情報共有を行い、見守りや声掛けを行うなど、生徒理解に努めるとともに、生徒が自己肯定感や自己存在感、そういったことを持つことができるよう、個々に応じた柔軟な対応を心掛けております。また、必要に応じて、適応指導教室やあるいは青少年センターなどの関係機関と連携をしながら、個々に、個々のニーズに合わせた対応ができるように努めております。御滝中学校と金杉台中学校の対応につきましては、不登校傾向の生徒に対して電話連絡や家庭訪問をしたり、登校できなくても教室に入りづらい生徒に対しては、別室にて教員が勉強のほうをするなどの対応

を取っております。続きまして36、37のいじめについてです。いじめの認知件数です。これについてはちょっとしたトラブルを含め、積極的にカウントするようにと、国の方針からもあります。ですから、新聞等でも話題になっておりますけれども、全国的に増える傾向になっております。小学生のほうがちょっとしたトラブルが多いことから、認知件数としては多い状況にあります。また、全ての中学校で軽微なトラブルでいじめとしてカウントしておりますので、認知件数は多いという状況にあります。これについて、不登校についてもそうなんですけれども、規模の大きな学校だから認知件数が多い、規模の小さい学校だから認知件数が少ないというような、学校規模といじめの認知件数の相関関係は、御滝中の認知件数が他に比べて、これも、高いということではありません。各学校のいじめに対する対応ですが、これについては未然防止、早期発見、早期対応の大きく三つに分けて取り組んでいるところです。未然防止につきましては、教育課程上のあらゆる機会を使って、いじめを許さない学校づくりに努めるとともに、児童生徒がいじめについて主体的に考え、また、取り組む場を積極的に設定しているところです。早期発見につきましては、年間複数回いじめアンケートを行ったり、教育相談体制を充実させたりしております。早期対応につきましては、情報を学校内で共有し、組織的に敏速かつ、丁寧な対応を心掛けているところです。必要に応じて保護者や関係機関とも連携しながら対応しています。いじめは、どの学校でもどの学級でも起こり得るものです。いじめを行ってはならないのは当然であり、いじめが起らないよう、職員や生徒が一緒になって日頃から取り組んでいくことが大切だと考えております。なお、いじめ防止に対する各学校の取組については、各学校で策定されています、学校いじめ防止基本方針に明記され、公表しているところです。説明は以上でございます。

#### 【総合教育センター所長】

続いて38ページになります。「発達障害のグレーゾーンの子は御滝中学校に不安がある」ということについて、総合教育センターからお話をさせていただきます。特別支援教育というのは、一人一人違いがあって、その子の違い、教育的ニーズを本当にしっかり把握をして、その子が生活や学習で困っていることを乗り越えられるような力を付けるために、適切な指導や支援を行っていくことになります。それが特別支援教育の理念でございます。その理念に基づいて、各学校では発達障害のお子さんですとか、特別な支援を要する方に対して、学級担任だけではなくて、特別支援コーディネーターですとか含めて、全職員で共通理解し、組織的に取り組んでいるところです。御滝中学校も同様に取り組んでおります。ですので、学校規模というよりも、学校の状況に応じて、こういった支援に積極的に取り組んでいくものですので、御滝中学校でも一生懸命取り組んでいるので、大丈夫というふうに考えております。ただ、学校だけをお願いするということではなくて、総合教育センターの教育支援室も学校と連携して取り組んでまいりますし、また、安心していただけるように、もし不安がありましたら、総合教育センターの教育支援室では教育相談を受けておりますので、相談い



ただければと思っております。説明は以上です。

**【保健体育課長】**

保健体育課です。部活動について御説明いたします。資料の39ページ、それから、現在の両校の部活動については、資料3の72ページに記載してございますので、併せてご覧ください。自由記述の中で、御滝中に卓球部を作って統合してほしいという御意見がございました。現在、部活動は、学校の教育活動の一つとして、指導者、それから活動場所などを考慮して各学校の判断で活動を行っておりますので、現時点ですぐに新しい部活が作れるかということは、お約束はできません。ただ、現状、金杉台中学校には卓球部で活躍しているお子さんもおりますので、今後、統合となったときには、部活動が継続できるような働きかけは行っていきたいと考えております。説明は以上です。

**【教育総務課長】**

それでは、意見の最後になりますが、8番目の、学校がなくなった場合、跡地はどうなるのかということにつきまして、40ページをお願いいたします。教育総務課より御説明いたします。この学校跡地の問題につきましては、先ほども申しあげました自治会連合会の意見交換会でも出されておりますが、大きなところといたしましては、今現在、一時避難所として指定されているこの金杉台中学校はどうなるのかということでございますが、指定は継続いたすこととなります。また、学校廃止によって団地が寂れてしまうのではないかという不安も出されております。これにつきましては、地域の活性化のため、施設の有効活用を今後検討してまいりたいと考えております。こちら、御説明は以上です。

**【司会】**

説明のほうは、以上となります。ただいまの説明に関して、御質問、御意見をお伺いしてまいります。着席したままで構いませんので、今の説明に関して、御不明な点、また、御質問・御意見のある方は挙手でお知らせください。より多くの方に発言いただけるよう、お一人の時間は、おおむね3分程度までにまとめていただければと思いますので、御協力をお願いします。それでは、御質問、御意見のある方は挙手をお願いいたします。

**【質問者①】**

説明会とか開かれる最初のほうで、説明会でたくさん御意見を出してもらおうのいいってことでしたけれど、時間が制限されるようになったのがとてもびっくりしています。

そしてですね、まずこれ、あんまり言えないので、一つはですね、アンケートの集計、保護者の質問に関する中の回答で、いじめのことについて、「御滝中学校で不登校

やいじめが多いのでは？」という質問に対する回答が、「船橋市の」で回答されています。これ、主語がすり替わっていますよね、全く回答になっていないと思います。これはどうしてですか。

**【指導課長】**

指導課です。「船橋市」にすり替えているということではありません。各学校についての不登校率、いじめの認知件数につきましては、配慮を要することということでもありますので、具体的な数値については申し上げられないということでもあります。

**【質問者①】**

私たちは、実際通っていらっしゃる方たちからお話を聞いて、御滝中学校は、明らかに金杉台と比べて不登校の数が多いと実感しています。それに対する回答は、無回答と一緒にです。それと、「こういった努力をしています」、「こういうふうな仕組みになって対応しています」。でも、問題はそれが、実効性があるかどうかです。で、現実の問題として、私たちは実際通っていらっしゃる方のお話を聞くと、実効性が上がっていないと思います。したがって、これも教員の目が届かなくなるのではという、実際回答になってなくて、現実問題として、今行き届かなくなっているのを、実例を知っています。

それとですね、通学区域見直し案②です。これ、実は結構いい案だなと思います。ところが、問題点として挙げられていたのが、通学距離が長くなるのが問題ということなんですが、それでは金杉台地区のすぐ北西側にあるところ、なぜ金杉台中学校に通えないのかとても不思議です。それとですね。船橋市の基本方針では、通学距離が4キロメートルまでオーケーだったと思うんです。4キロメートルって距離はあまりに広いと思うんですけれども、そこでは4キロメートルまでオーケーっていいながら、ここではなぜか通学距離が、おそらく4キロを超えてないと思うんですけれども、通学距離が長くなると心配してくださっているんです。これは自己矛盾だと思いますけれども、いかがですか。

**【学務課長】**

学務課でございます。まず一つ目の、金杉台中の北西部、馬込町の辺りのことを御指摘ということでよろしいですか。確かに検討していく中で、馬込町の部分も検討してはおります。その中で、先ほど距離の話が出ましたが、確かに4キロというのが方針の中で目安として定められておりますが、馬込町のところの距離を比較していきましたところ、当然、学区の変更ですから、4キロという範囲の中での変更案を考えたのですが、この馬込町の部分の変更を考えたときに、一番遠いお子さんで考えると、地域的に考えると馬込町801番地付近のお子さんが、そこに居住しているということであれば、旭中までの距離が、今通っていて1.1キロくらいのところが、金杉台中の学区にすると2.8キロくらいになる。確かに4キロ以内には収まっているのでありま

すが、今の通学距離に比べると、かなり生徒に負担をかけてしまうと。そういうところから通学距離が遠くなるという説明をさせていただきました。そして、この馬込町のところにつきましては、隣の旭中との学区の関係もありますが、金杉台中を今検討している段階で、馬込町の学区について学区変更をするということは、今の金杉台中を検討している段階では、船橋市教育委員会としましては好ましくないというところから、今回の御説明の中では入れていないというところでございます。以上でございます。

【質問者①】

これ一番上の部分。紫色ですかね、この色の部分。直線距離で見ると、御滝中でも金杉台中でも大きな差がないように見えるのですけれども、どうしてこのちょっとした通学距離が長くなるのが、この場合だけ問題になるのでしょうか。

【学務課長】

地図の青い部分のところを御指摘いただいたと思うんですが、ここにつきましても検証はしておるところでございますが、距離でいうと、大体、今そこの子供たちが御滝中に通う一番遠い子と考えた場合に大体 2.1 キロで、金杉台中に通うとなると 2.6 キロくらい。地図上の計算になるんですが、500 メートルほど長くなるということによって検証しておるところなんです。先ほど説明させていただいたように、学区の弾力化というところで、距離によって指定校変更も可能だという制度が、これは市内全域にございますので、この距離によって変更する子供たちも出てくるということが予想されますし、又は、御滝中学校に兄弟が通っている場合に入学する際に、兄弟が御滝中に通っているのを御滝中に変更したいというお子さんも出てくるということが予想されるということから、指定校変更をする率もかなりあるのかなと、今の状況からしますとですね、ということで教育委員会としては考えているところでございます。以上です。

【質問者①】

あとね、20 ページですかね。国の標準とする学校規模 12 学級以上 18 学級以下、船橋市は 24 学級以下。「特別の事情があるときは」という、「特別の事情」はなんですか。特別の事情がないのに 24 にしているのですか。文部省の手引のところを見ましたが、統合するときの 18 学級を 24 学級に拡大してもいいというのがありました。これつまり、将来的にはもう間もなく 18 学級になるというのを一時的にはしょうがないから 24 までやりましょうね、ということだと思います。ところがこれ、特別の事情がないのに 24。どういう事情ですか。

【教育総務課長】

教育総務課です。18 学級を 24 学級にしているというのは、この国の基準はもちろ

ん全国の統一の基準という形でございますが、千葉県、特に船橋市につきましては都市部であるということで、それを24学級まで広げているところでございます。

**【質問者①】**

でもこれ今24学級ぎりぎりですよ。ひょっとしたら瞬間的には24学級を超えてしまうかもしれない。ということは、これも言うれば、文部科学省の指針に違反されてるわけですよ。それとさっきの見直し案②ですか、これを採れば、金杉台中学校も適正規模に近づくと、御滝中学校も過大だと思いますけど、こっちのほうも過大なのが緩和されて18学級以下にできるはずですよ。その方策が一番いいと思うんですけども。

**【司会】**

今のは御意見ということで承っておきます。

**【質問者①】**

それからですね、一番最初に保護者説明会のときに出た意見のときに、第1回地域説明会のときに教育委員会の考え方という冊子が配られました。その内容があまりにひどいので、その内容のひどさを、どこが問題であると指摘したものを、私のほうで第2回の地域説明会でそれをお渡ししました。そのときに文章で回答してくださいということで、文章で回答しますということでお約束いただけました。けれど、それは、これですか。こっちの別紙がその回答ですか。

**【教育総務課長】**

今の御質問ですけれども、資料5に御回答のほうは載せてございます。

**【質問者①】**

この回答はまたひどいんで、またひどいのはまた指摘しようと思いますけれども、当日いきなり渡されたんでは困るんで、出来上がったならば、事前に連絡くださいということでお願いして、それは了解されていたはずで、7月の定例会のときに、定例会議ですかね。そのときに伺って、係の方から、じゃあ事前に連絡しますということで、連絡先を置いてきました。これは、今日出来上がったのですね。

**【教育総務課長】**

この資料をまとめたのはここ数日でございますので。

**【質問者①】**

ということはまあ、事前に連絡いただけなかったということなんですね。出来上がり次第ご連絡いたしますと約束していただいていたんですけど。私がいろいろ指摘し

たことに対して、これは全く、ろくに答えられていません。それからこれ、問 18 なんですけど「コールマンレポートは」っていう主語に対して、これに対して全くこれ何も触れられていません。結果的に言ってることは、私たちは文部科学省の方針だけに従う。ほかのものは全く無視するっていうことだけだと思います。これ、いろいろ指摘されたことにろくにこれ答えてませんよね。

**【教育総務課長】**

こちらの回答につきましては、教育委員会としての回答ということで御理解いただければと思います。

**【質問者①】**

わかりました。じゃあ、御意見を募るのが目的だけれど、それに答えるのは目的ではないということがよくわかりました。

**【司会】**

それでは次をお願いいたします。

**【質問者②】**

座ったままで失礼いたします。今、資料の説明を伺ったんですけれども、まず、29 ページのところですね、これだけを見ますと、結果的に仮に御滝中学校と統合した場合に、24 学級以上、過大規模状態が、約 10 年は続くということですね。これ、よろしいことなんでしょうか。で、御滝中学校の方は、これを受け入れているんでしょうか。

あと、先日 26 日に文教委員会がありまして、私も傍聴に伺いました。そのときに  
出た委員さんの意見も踏まえながら、資料がそろっていると認識しています。あらかじめ保護者アンケートの自由記述をよく読ませていただきましたけれども、正の字で票を取りますと、やっぱり若干ですけれども、統合したほうが良いという意見が多かったのは確かです。けれど、中間意見というような、どちらとも、両方の良さを生かして活性化を望みますという意見もありました。そして何より一番多かったのが、この学区がおかしい。指定学区であり、選択制学区であり、この現在の学区の状態がおかしいという意見が一番多かったんです。ここを今、学務課長さんがおっしゃったように、今ここでこうですから学区の変更が無理ですと、ばっさりと結論付けていいものなんでしょうか。本当に思いますね。県道沿いに今 90 軒ほど家が建っております。で、そこは小さいお子さんたちが、高根小であったり金杉小であったり、金杉台小学校であったり、学校がちゃんと指定されないまま住んでらっしゃるわけなんです。それはまあ、近くの地域のことだけを言ってもと思いますけれども、今、市内全域の学区の、学区編成っていうのを見直していかないと、塚田のほうも今、2、3 年後にもう一つ小学校を作ろうとしていますけど。その 30 年後、40 年後ってどうなるのか。

ここと同じ航路をたどるのではないかとすごく心配であります。増えたから学校を建てて、減ったから潰して、建てて、潰して、それを船橋市は繰り返すのか。とても心配になってしまいます。そこをお答えいただきたいんですけども。

【管理部長】

管理部長でございます。大きな話ですので、私のほうから御回答させていただきたいと思っております。まず何点か御質問があった中で、過大規模校になってしまうのではないかとということなんですけれども、過大規模校は、市としましては、普通学級が31学級以上というふうに定めていますので、まず御滝中は普通学級数が最大28学級までの学校規模ですので、過大規模校にはならないというふうに考えてます。ただ、学校のほうの受け入れはというところは、教育総務課長から回答させていただきましたけれども、もし統合っていう方針を最終的に決めたら、次はいつ統合するのかという時期の問題があります。その時期を定めるに当たりましては、例えばこれから子供がどれくらい増えていくのか。ただでさえ御滝中については子供が増える傾向にあります。そこに金杉台中の子供が50人ないし60人加わるという形になると、先ほどのような、最大980人くらいの学校になってしまいます。ですからこれは、施設面でどうなのか、設備面でどうなのか、何よりも学校運営上問題ないか、そこは十分学校と協議させていただいた中で、これならいけるだろうという時期を見極めた上での統合というふうになるかと思えます。

それから2点目なんですけれども、学区の話がございました。ここ、御滝中と金杉台中の学区というのは、ほかの学校よりもある意味非常に特殊事情があると思っております。と、申しますのは、本来ここは御滝中学校の学区の中に団地ができたことによって、その団地のお子様たちを受け入れるために学校ができたという関係がございまして、先ほど学務課長からも説明があったんですけれども、線の引き方というのが非常に難しい。学区の分け方というのが非常に難しいというふうに思っております。それで、教育委員会の中でシミュレーションをいろいろ考えていくと、例えば学区の線引きをしたとしても、本来指定校変更という制度は船橋市にはあります。つまり、学校が近ければそっちの近い学校を選ぶことができますという制度がございまして、そうしますと、御滝中学校の周辺のお子さんというのは、当然ながら、強制的にそのルールを変えない限りは、基本的には御滝中のほうに行くであろうというふうに考えております。ですから、本当にこれで実効性がどこまで保てるのかということもありますし、この金杉台中に、またすぐに3学級に戻ってしまって、また近い将来統合という話になるような状況は何としても避けたいと思っておりますので、ある程度の規模数、例えばその、各学年が最低でも3学級。そのくらいになるような、お子さんたちが金杉台中のほうに行かないと、結局はまた統合という話になってしまいます。そうしますと、大きな学区の見直しとなりますので、お示しした案で決めるというつもりは全くございません。この案につきましては、また町会自治会の方々にも御協力をいただきまして、全て回覧させていただいて、こういう学区については、御滝中の地

域の方はどうお考えですかということ、考え方を伺いしようと思っております。それをするによって、地元の意見がどうなのかということをもっと把握させていただきたいというふうに思っています。

それから先ほどいじめのお話がありました。今回、自由意見の中で、実際、御滝中は不登校が多いのではないかというお話がございました。具体的に何人いるかというのは、この場では個人的な問題になりかねませんので、人数につきましては控えさせていただきたいと思います。ただし、資料1の32ページをご覧くださいと思うんですけども、不登校につきましては、船橋市の不登校率が3.45パーセント、当然、不登校率が3.45パーセントだからいいということでは全くございません。ですけど、市の3.45パーセントに対して、御滝中については、率につきましてはほぼ同じです。一方で金杉台中学校は、当然ながら全体が58名からしかいないということもあるんですけども、割合は中学校の平均よりも高いというのが現状になっています。

あともう一つですね、回答の中で担当のほうから出来上がり次第すぐ回答を送ることになっていたということについては、すぐ回答できなかったことについてはおわび申し上げます。

それからコールマンレポートのこととかについても御意見いただいたということは、私も把握しております、そのコールマンレポートっていうものにつきましても拝見させていただきました。ただし、あくまでコールマンレポートっていうのは一つの学説という形でありまして、やはり私どもとしては、地方公共団体でございますから、文部科学省が定めた学級基準という形、それから、学級編制基準それから教員配置基準、こういうものがあって初めて学校ができるというふうに考えておりますので、それはあくまで一つの御意見として伺いさせていただきたいということが正式な回答でございます。以上です。

#### 【司会】

手を挙げていらっしゃるんですが、よろしいですか。

#### 【質問者③】

よろしく願いいたします。私は金杉台小学校の児童の父兄をしております。よろしく願いいたします。今この場でいろいろと教育的な考え方ですとかそういったお話し合いをされていらっしゃるの、承知の上でのお話なんですけれども、今、私は実際、近々に中学校入学を控える子供がいるという状況の中で、いろいろ選択をしなければならない時期に来ているところと考えています。その中で伺いたいのが、この話し合いの結論は、一体いつ出るのかということなんです。もう3回、4回会議をされているということをお聞きしておるんですけども、この話し合いが2年も3年も4年も続くものなのか、もしそういう話になるのであれば、いつを目途に考えていらっしゃるのかということが定まらないと、例えば来年に決まりました、再来年から合併

しますという話になったときに、例えば、やはりどうしても納得いかないので受験を受けたいという親御さんがいたときに、1年で受験をしろというのはかなり酷だと思うんですね。なので、こういったものも踏まえて、いったいいつ、この話の結論が出て、この結論が出てからいったいいつですね、実際に統合されるのかというのを少しでも明示をしていただかないと、本当に、控えている親としては、判断できない状況がずっと続いておりますので、その点をお伺いしたいというのが一つですね。

あともう一つだけお伺いしたいのが、仮に金杉台中学校に行った後に、その行っている間に統合になった場合という、やはり子供たちですから、御滝中の子からすると金杉台中の子たちっていう感覚があって、どうしても一定の差別感ですとか、そういうところも、ある意味、ないとは多分否定できないと思うんですね。その中をどういうふうに支援していくのかというところ、若しくは統合が決まった段階で金杉台中学校が受け入れをやめて、3年を待って閉校するのか、そういったところが全く見えないので、そこをできるだけ具体的に教えていただければと思いますので、よろしくお願いたします。

#### 【管理部長】

管理部長からお答えさせていただきます。今、おっしゃっていただきました御意見というのは、まさにごもっともなお話だというふうに思っております。やはりこの統合するかどうかという今後のあり方の話が出てから、地域のお子さんたちも非常に不安がっているという声を聞いております。ですので、先ほども申し上げました統合の方向で進むのか、あるいは学区の見直しをして存続の方向を目指すのかといういずれかの方針を今年度中には出したいというふうに思っております。

その上で、では統合をいつの時期にするのかというところなんですけれども、まず基本的には受け入れがちゃんと御滝中でできるのかというところの見極めをした上で何年後、ということはあるかと思っております。その時期が何年後かという形になりますけれども、今具体的な例示を挙げさせていただいたように、仮にですね、例えば1年後ということになると、令和3年の4月からになります。1年後はどうかになって感じはするんですけれども、そうするとまず、今、金杉台中学校の1年生のお子さんが3年生になったときに、御滝中に統合という、受験の年に統合という形にもなりますし、それから例えば、今、金杉台小学校の6年生のお子さんが来年4月に学校に入りますよね。金杉台中学校に行かれるとなった場合に、学校に行くことが決まった瞬間に、ある意味統合しますという話になったときの、当然その子の影響ですとか御負担ということも併せて考えていかないといけないと思っております。ですから、何年後ってというのは、本当に申し訳ないんですけれども、今の段階では申し上げられませんが、そういった課題も十分に認識しておりますので、教育委員会のほうでその辺のところも十分協議した上で検討。次回2月の頭くらいに学校の場をお借りできればと思っておりますけれども、またそこで開催させていただきたいと思っておりますから、その場である程度のものについてはお示しできるように努力していきたいと思っております。



ます。よろしくお願いいたします。

【司会】

よろしいでしょうか。

【指導課長】

よろしいですか。金杉台中の生徒さんが御滝中に統合になった場合についての支援ですね。これについては、まず教職員間のところで金杉台中の生徒さんの状況等含めて、個々に御滝中の職員と情報交換等、きめ細かにさせていただいて、受け入れについて準備を進めていきたいと、もしなった場合にですね、考えております。また、子供たちに対しては心の教育というところを、受け入れているところで、おっしゃったとおり<sup>まご</sup>危惧されるところは十分考えられますので、そういったところを踏まえて一斉あるいは個々に生徒たちにも指導というか説明等をしながらやっていきたいというふうに考えます。もしそうなった場合は、ですね。以上でございます。

【質問者③】

ごめんなさい。ちょっと、お伺いしたかったことがずれておりまして、私は、受け入れが、例えば中1の子が突然中2で御滝中に行くのか、それとも金杉台中の受け入れをやめて、以降は全部御滝中に移行していくのか、というところが心配なところなんです。要は、金杉台中の制服を着て御滝中に行く子が現れるのかどうか。それは受け入れの仕方だと思うんですけども、もしそういうふうになれるのであれば、それはケアをしないと、私もいろいろ転校してたんで、前の小学校の体操服を一人だけ着ていたっていう経験があるんで、やっぱりあんまりいいもんじゃないんですね。かと言って、それを親が揃えると、制服1着って考えると嫌なんで、であれば金杉台中の受け入れをやめて、順次移行していくほうが、親としてはもう、そういう方針で行くのであれば納得できるんですけども、途中で入るっていうことがあるんでしょうかっていうのが、どちらかという聞きたいことなんです。お金の面もありますし。心の面もありますし。

【学校教育部長】

学校教育部長です。今の御質問のところ、統合が決まる、そしてそれがいつになるかっていうところで、それが1年なのか、例えば3年なのかというその期間が決まったところですね、ケアの仕方又は転校をする場合には、いっぺんにその時点で転校するかどうかということ、統合が決まって、そしてそれがいつかっていうことをいろいろ逆算しながらですね、具体的などころについてはきちっと決めて、しっかりした配慮をしていきたいと考えております。

【質問者③】

船橋市で同じように中学校を減らして統合したという前例の事例があったらどういうふうにやったんでしょうか。そういうことはあるんですか。小学校は、高根台第三は私も知ってるんですけども。高校も県立高校で、旭高校がっていうのは。中学校で、船橋市でやられたケースの前例っていうのがいったいどれなんですかっていうのが聞きたいんですけども。

【学校教育部長】

船橋市の中で、中学校のこういった統合等については、今まで前例はありません。

【質問者③】

わかりました。

【司会】

そのほか御質問はありますか。

申し訳ありません。そうしましたら後ろの方、先にお願いいたします。

【質問者④】

今の話の流れでちょっと気になったんですが、なんか統合ありきで話が進んでるなって思ったんですよ。まだ決まってない、でいいんですよ。私は6年生の子供がいるんで、金杉台中に来年4月から行かせようと思ってるんですけど。やっぱり御滝の良さと金杉台の良さってお互い別だと思ってるんで。お互い残す方向っていうんで考えてほしいんですよ。通学区域の見直し案②って、確かにこれがうまくいけば、お互い半々じゃなくても、6割4割とか7割3割とかで分担できて、御滝に集中して目が行き届かなくなったりとか、そういう面でやっぱり統合したらあると思うんで、お互い残す方向というふうに考えてほしいなというのが個人的な思いです。で、やっぱりもう、同級生の親御さんが御滝中に通わせてる人から話を聞くと、行き届いてないっていう声も聞いてるんで。一点集中でなくて、せっかく2校あるんだからこれをうまく分担してっていう方向にしてもらいたいと思います。

【司会】

ありがとうございます。

一番前の方、お願いします。

【質問者②】

2回目で申し訳ありません。今の方の御意見を踏まえて、これが意見交換会であることを信じて提案をさせていただきます。本当に、たった3年間しかない中学校を統合したり、一つなくしたりするって、当事者にとっては大変な問題なんですね。次の

進路に関わってきますから。小学校の例はたくさんあるのは、中学校がないっていうのは、そういうところなんだと思います。で、やはり中学校というのは、どういう形であれ、残しておくというのが大切なことなんだっていうのが、今、改めて思いました。

で、過大規模校ではないと言いますが、今 21、22 学級ですか、御滝中は。それが 27、28 と、5、6 増えるって、学校として非常に大変なことだと思います。これは中の、人間の問題ですけれども。ですから、もし増えた場合に、そこで起きたこと。不登校であったり、まあ、不登校・いじめというふうに件数でくくるのではなく、その中身っていろいろあるんですよね。で、本当にもうこの学校駄目だ。というときの一つ小さな受け入れとして金杉台を残しておくというのも、一案として提案させていただきます。この大きな施設の管理維持費という問題でしたらば、今は行財政改革の推進会議でもやっていますよね、指定管理者制度などうまく利用して金杉台中学校を残すということを改めて提案させていただきたいと思います。以上です。

【司会】

ありがとうございます。

【質問者⑤】

それでは、いくつか聞きたいことがあるので申し上げます。まず最初に、「金杉台中学校の少人数制の良さがなくなるのでは」というアンケート自由記述に対する回答として、学校規模の基準というのが示されているのですが、これは何の回答にもなっていないと思います。金杉台中学校の少人数制の良さがなくなりませんかとか、確かになくなりますねというのが正しい回答のあり方ですよね。これに対して、国の基準はこうです。船橋市の基準はこうですというのは、全く回答ではないと思います。論理的におかしいと思いますよね。で、先ほど言われてた主張というのが、私たちは、行政として教育行政を担っている。そのときに国の基準があって県の基準があって、それに従ってやっているということでしたけれども、地方自治体の責務としまして、実際に一番身近に住民に接している、そしたらそのニーズを拾い上げて、もちろん、今ある基準の中で、じゃあ弾力的な運用ができるということ、ちゃんとそこはわかっている国もうたっているわけですよ。それに合わせていくっていう、そのすり合わせの努力というのも、もちろんされていると思うんですけれども、先ほどの回答だと、申し訳ないけどその努力よりかは、この基準に合わせるほうを優先しているかのような印象を受けてしまうと思います。ということが一点。なんで、すみません、ここで学校規模の基準はこうですよというふうに出されたところで、金杉台中学校の少人数制に対して、アンケートの中でも満足の声っていうのも一定程度あがっている。そこがどうなるんだろうっていう不安に対する回答には全くなっていませんよというのをまず指摘したいと思います。

それから、学区の問題ですが、学区というのは、あらかじめきちんと決めておくも

のになっているという、ここで示されていますけども、その目的はおそらく、義務教育であるから、教育機会を保障するためにというのが、大目的なんだと思います。ですよね。ということは、逆に言うと、教育機会がきちんと保障されていれば、別に通学区域をあらかじめ決める必要もないわけです。ですよね。目的がちゃんと保障されていれば。義務教育というものをきちんと機会均等に保障することができるよっていうのであれば。だから極端なことを言えば、私は船橋市全域で、通学区域というものを決めるのではなくて、全員どこでも選択していいよ。ただし、ちゃんと安全に自分で通えるんだったらね。というふうにしちゃうのが、おそらく一番平等なんじゃないかなと思っています。そこまでなかなか極端な改革っていうのは難しいとは思いますが、決めるっていうことは、通う学校を決めている目的は、教育機会を保障するためなんだっていうところを考えると、学区の見直しに関してはそういうふうに考えます。

それから最後ですけれども、まちづくりということですが、お話の中で、地域の生活への影響という言及がありました。で、金杉台中学校というのができた事情が、金杉台団地ができたときに、生徒数が膨らんで、それを受け入れるために学校が開校したというような歴史的経緯が言われました。ということは、本当に金杉台中学校って、金杉台団地と一体の中で歩んできたという歴史があるんですね。で、この学校がなくなることによって、やっぱり心配してるのは、少子高齢化が進んでいます団地が、ここでますます拍車がかかって、いずれ子供はいなくなります。老人は当たり前ですけど、いずれ亡くなっていきます。そうすると団地は消滅するのかなっていう気はあります。なので、私は、だったら団地の中の中学校を残して、これを街としてどういうふうに活性化していくのか、そうですね、船橋市全域でも人口は減って子供は減っていくというのが当たり前のように語られていますけれども、ここは教育の場なんでそこまでは話に取り上げられないっていうふうに思われるかもしれませんが、いやいや、子供が増えるような、子供が育てやすいような地域づくりを、学校ありきで考えてもいいんじゃないかなというふうに思っております。以上です。

#### 【司会】

御意見ということでよろしいでしょうか。

それでは、後ろの方、よろしく願いいたします。

#### 【質問者⑥】

金杉台中学校の地域説明会に初めて出たんですけれども、うちは子供が小学校低学年なんですけど、このアンケートって、4年生から6年生っていうふうに、うちはアンケート来てないなって思ってたんです。金杉台団地の住民で、これからこの小学校、この中学校に入れると思ったんですけれども、無関係なのかなって。なんで4年生から6年生って。アンケートを取るのに、実際に金杉台小学校に通わせてる住民として

は、張り紙がされてこの地域説明会があるっていうのを聞いて、前回のことも何もわからない状態で今来たんですけども、これは。

**【教育総務課長】**

教育総務課長です。お子さんのところにアンケートがいかなかったというお話だと思うんですけども、教育委員会のほうでも、今回アンケートを取るのに当たって、対象年齢を何歳、何学年までにするかっていうのは、内部でも様々な意見がございました。ただ、中学校への進学を意識し始めるのは、やはり高学年になってからではないかという考えから、4年、5年、6年生の保護者の方を対象に、アンケートをさせていただいたということでございます。

**【質問者⑥】**

この20ページに書いてあるように、中学校進学を意識するっていうのが、入学前からが21パーセント、小学校1、2年生から10パーセントで、一応そこに含まれているんですね。この31パーセントのこの中に入っているんですけど、それが除外されているという感じで進んでいったっていうふうを受け取ってもいいんでしょうか。

**【教育総務課長】**

教育総務課です。アンケートの結果が20ページに載ってございますが、4年生以上の、4年、5年、6年の保護者の方の意見ということで、あくまで参考にとということで考えております。

**【司会】**

この20ページの回答は、実際にアンケートを出していただいた後にこのようなことがわかったものですから、その前の段階では、今回、我々のほうでは高学年を対象に取らせていただいたということで、確かに低学年の方とか、入学してない方の中にもそういう方がいたかもしれないですけど、その辺が反映できなかったということは、こちらのほうとしては申し訳なかったと思っております。

お願いいたします。

**【質問者⑦】**

何回か説明会ということで来ておるんですけども、説明会で、先ほどの疑問になっているところの心配な方もいると思うんです。時期が出てない。私が一番心配したのは、自分も小さいときに中学校が統合になるのを経験してきたんです。その経験からいくと、子供たちは一緒になってもいじめっ子なんかは、あの当時にはなかったです。ですから、やるのであれば、年の途中ではなくて、年度の初めが一番よろしいかと。あと、途中で子供たちがずれた場合は、体操服、制服が絶対違いますから、それは市のほうで助成するなりして、御滝中に行くと決まったならば、その辺の補助

はお願いしたいなど。

それと、地区連のときをお願いしたように、もし統合になったときの跡地、これが一番地域住民は心配しております。ゴーストタウンにならないように早めに何か検討して、もし、まあ、こういうこと言っちゃうと、統合ありきなどと心配される方もいると思うんですけども、私は、子供のことを考えたら、将来的には大規模校だろうが、滝中に行ったほうが、子供は助かると思う。今、28学級が多いの少ないのと言われてますが、私の子供が行ったときはもっと多かったです。プレハブの校舎で三十何学級です。それでもやって、いじめとかそういうものは目立たなかったですけどね。まあ、私が知らなかっただけかもしれませんが、それは。そういうわけで、跡地の利用は早めに検討するようにしていただきたいと。それから、学区の変更と言われると、過去もあったんですが、御滝中学校のすぐ裏にあるのに、金杉台中に学区があったということも当時ありました。だから、近い学校に行きたいのに学区が違うからいけないのもありますからね、あまり簡単に、安易に学区の変更はしないほうがいいと思うのと、小学校から大体同じ学校に行きたいというのがありますから、そういうので考えていきたいと、以上です。

#### 【司会】

それでは、今、お二方なので、時間的に 11 時近いので、お二方に意見を聞きたいと思います。

#### 【質問者⑧】

前回の自治会連合会のときに同じようなことを申し上げたんですけども、まず、学年の途中、学年の切り替えだったら、制服、こちらを考えていただきたいと。同じ学校の制服を生かしていくのか、そのまんま新しい制服で行かせていただけるのか、その辺りは考えていただきたいということは、前回も述べました。ですので、そのことは考えていただけるんじゃないかなと、まあ統合の場合はですね。

じゃあ統合でなかった場合、学区のことなんですけれども、今、私は船橋市に住んでるんですが、子供時代は埼玉に住んでいたんですね。で、私が行ってた学校は、山を越えていかなければ行けないんです。小学生の時代でも山を越えて歩いて通学してたんです。それが当たり前だと思っている時代の小学生なんですけど、そういう地域に住んでいる子たちっていうのは、体が鍛えられるんですね。で、そのいい面もあります。ただ、少人数の学校だったために、高校に上がったときに、あまりのクラスの多さにびっくりして、お友達との隔たりがあったりとかして、カルチャーショックを受けることも確かにあったんです。大きな 11 クラスあった中学校から来るお友達からすると、同じ学年なのにお友達を全く知らないって言ってるんです。隣の、両隣の学年であったらわかるけれども、遠く離れた同じ学年のクラスのお友達には会ったこともないし顔も知らないし名前も知らない。だから生徒会の会長の選挙のときに、名前を言われても、さあ誰だろうな？っていうのがありましたっていうことがあったん

ですけど、御滝中学校の今の学校の造り方からすると、学年棟ですよ。学年棟だったら、1階は現状わからないんですけども、2階から上に学年室があるので、予備室のような学年室が確かあったと思うんです。1組、2組で、空いてる教室が。そういうところを使って生徒さんが入れば、同じ学年の子供たちが、顔も知らない、まあ、名前は知らないことがあるかもしれませんが、顔も知らないってことはないので、そこに統合して、金杉台中学校のお子さんたちが入ったとしても、毎朝同じ学年の子に会えるので、そんなに問題は起きないのかな。カルチャーショックも起こりづらい。卒業生の中には、やっぱり大きな高校に行ったときに、カルチャーショックを受けて、ちょっとうちの子、落ち込んでたんだよね、お友達ができなくて、お友達の作り方がわからない、そういう話がありましたので、統合の良さ、それから、今の金杉台中学校での良さ、それを両方とも考えた上で、話を進めていかないと、さっきおっしゃったように、これから中学校に行くつもりでこの地域を選んで引っ越して来ましたが、まだ対象の年齢じゃなかったからアンケートから外されてしまったってことは、現在わかった。ていうことは、小学校1年生のお子さんを持っている親御さんに関しても、将来的にこういうことが起きる可能性がありますけどいかがでしょうかというのを、1回投げかけてあげなければ、この問題は前にあんまり進んでいかんんじゃないかと思います。以上です。すみません。

【司会】

ありがとうございます。

では、最後をお願いいたします。

【質問者⑨】

すみません、いくつかあるんですけども、ちょっと先ほどほかの方から出た、昔はそんなことなかったとか、そういうところを一生懸命ペンが動いてらっしゃったように、特に左側の方、まあ、書記なんだろうけれども、皆さんうなずいたりとかしていましたけど、今ここで、これから子育て、子供を進学させようと思っていろいろ考えたり、今日来れなくても行ったら聞いてきてねっていうふうに気持ちを預かってきている親もいますので、今、子供を育てるために考えて意見を言っている親の気持ち、あとそこに、不安だから親に意見をぶつける子供の気持ちを本当に一番大事に考えていただかないと困るかなっていうのを、聞いてて思いました。確かに私、20年くらい前ですけど、御滝中そのときも多くて、ほかのクラスですごくいいじめが起きてるのなんか、全く知らない。学校休むと、家の中にみかん、卵が投げ入れられる。学校行くと上履きに明太子めんたいこ入ってるとか、それを全くほかのクラスは知らない。私も卒業して10年くらいしてから知りました。当時そんなことが隣の中学で起きてるなんてこと。なので、先生が目が行き届いている、行き届くようにするなんて言葉をとて信じられないというのが正直なところであって、統廃合の話は、私が在学中からもそ

の前の世代からも出ていたっていうのはずっと聞いていることなので、うわさとしては知ってたけど、本当になっちゃうのかなっていう感覚は、やはり地域のほうにもあると思います。ただ、子供の権利、選んで金杉台中に今進学してきている子供もいますし、これからそこに行こうと思ってここで学校生活を送っている子供もたくさんいることは、数字に出し切れないうところというのもたくさんあるので、そこは1年生から3年生までの保護者に対してのアンケートがなかったっていうのは、とても悲しいなと思っているので、今回のアンケートは、失敗ではないですけども、たくさんもまれた、結果はあまり良くなかったのかなって。1年生から3年生までも、きちんと全学年まずアンケートを取るべきだったんじゃないのかなと思います。私も内容は見ましたが、回答はしていませんので、ちょっと言葉尻が御滝中寄りに、御滝中がすばらしい、仲間も刺激のある学校みたいに表現されている文言とかも気になりましたし、実際、中学校に通ってる子から話を聞くと、正直、自分としては、今は生まれる時期じゃなかったと思う。小規模の学校で学習がとても保障されて、とても良かったっていうふうに、これを私達の子に残してほしいって思ってるんだよってその子に言ったら、おれもそう思ってるよって言ってきて。でも大人が決めることだから、自分たちの意見は聞いてもらえないっていうことを直接子供から預かって、今日、来たんですけど。子供の意見もそうだし、親の私たちの意見も、ある程度の答えを全部見ると、でもしょうがない、できない理由がこんなにあるのだから、っていう回答にどうしても見えてしまって、そうだね金杉台にもこんないいところがあるよねっ、みたいな歩み寄りとは全く感じられず、統廃合オンリーっていうのかな、回答にとっても見えて、残念だなと思いました。

あとは、これは説明会ですっていうアンケートの記入ですかね、あったと思うんですけども、意見交換会ではなく、説明会としていますっていうのがあったんで、じゃあ意見交換会はしないのかなっていうのが、一つ疑問に思って、説明会、そのあと意見交換会、検討して、今後のことを決めるっていう流れになるような話を最初聞いたような気がしたので、でも今年度中に方向性を決めたいっていうさっきのお話があったので、じゃあ説明会だけして何となくこうやって意見を聞いて、2月にはある程度の方向性を下書きした状態を持って来られるのかなっていうのが、少し早急なのはどうか、裏で話ができてたって言われちゃう原因は、そういうところにあるのかなと思います。なのでもう1回アンケートを取ったりとかする必要はあるのかなっていう。さっきも言ってたんですけど、親の意見とか地域住民の意見をどこまで反映するかっていうのは大変なことだと思うんですけど、子供を持つ親としては、意見を聞いてもらえないっていうのがすごく悲しいことだなと思います。以上です。

#### 【司会】

ありがとうございました。

それではですね。予定の時間を過ぎました。皆様から、いろいろな御意見、お考え、思いをお伺いできましてありがとうございました。



それでは、管理部長から。

【管理部長】

皆さん、いろいろ御意見いただきましてありがとうございました。今回、このアンケートを取らせていただいた中で、やはり中学校の進学、先ほどの方からも御意見いただいたんですけれども、中学校を真剣に考えるっていうのはやはり、5年生、6年生、あるいは4年生くらいからだっていう教育委員会としての受け止め方があった中で、今回、対象を4年生以上という形でアンケートを取らせていただいたんですね。それで、先ほどの20ページの結果からも、実はもっと小さいうちから中学校については考えてらっしゃるっていう結果がわかってきて、この辺については、今回、我々の反省かなっていうふうに思っています。このアンケートの自由意見も含めてもそうなんですけれども、子供の教育環境をどういうふうに考えるか、それから学校についてどういうものを期待して、学校はどうあるべきなのかについての御意見は、本当に皆さんそれぞれあって、今日、それを一つにまとめるっていうのは非常に難しいのかなというふうに思っております。確かにこういう地域説明会をやる中で、まあ、意見交換会でも結構なんですけれども、どうしても時間と場所に限定があるものですから、皆さんが全員参加していただけることは、なかなか難しいという中で、こういうアンケートを取らせていただきました。やっぱり一番大事なのは、これから中学校に進学するお子様を抱えていらっしゃる保護者の方でもあるでしょうし、お子さんでもあるかなというふうに思っております。ですから、この資料を含めまして、地域の方たちが全員見れるような形を取りたいと思っております。その上でまた御意見をいただければなというふうに思っております。最終的に、これは冒頭で私のほうから申し上げましたけれども、もし残すということであれば学区の見直しが必要になってくると思います。そうしますと、今、この幅広い選択地域が、基本的にはこの金杉台中学校の指定学区となると。そうすると、今は選択地域ですので、もともと御滝中学校に行っていた方については、何の影響なく選択で御滝中に行けてたところが、いや、ここからは全部金杉台中に行ってくださいという話になってくるということもあるので、その学区の見直しについての地元の方の御意見ももちろんあるかと思っております。

それから、もう一つ、今現在の金杉台中学校がなんで統合の話が出ているかという、これからどんどん減ってきて、推計では更に減って、20人台、10人台になるかもしれないという中で、さすがに学校が維持できない。だから、子供の数を増やさない限りは学校が維持できないだろうということで、この話し合いや検討が始まっております。ですから、統合の話が出ない規模まで子供たちを増やそうとすると、少なくとも今、1学級1学年20人程度でやっているきめ細かい金杉台中の良さというのは、違う形になってしまうかなというふうに思っております。むしろ逆にそうなっても学校は残してほしいという御意見なのか、それとも、今のままの金杉台中学校を維持できるような形にしてほしいのか。この辺のところの御意見は分かれてくるかなと思っております。それから、仮に統合となった場合には、時期をどうするのか、それから、

統合に向けての御負担をどうするのか、それから、跡地をどういう形に使っていくのかということについては、大切な問題だと思っておりますので、この辺について、また改めまして教育委員会の考え方というのをお示しさせていただこうかなというふうに思っております。今日は短い時間でしたけれども、皆様からいろいろ御意見いただきましてありがとうございました。もう少し深堀できるようにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

**【司会】**

それでは、お手元に「ご意見等記入用紙」がございますので、ぜひ今日来ていただきましたので、御意見を言っていただいて、記入できる範囲で構いませんので、御協力いただければと思います。出口付近に回収箱がございますので、そちらに入れていただければと思います。説明会の中での質疑と合わせて、個人等が特定されないようにして取りまとめまいります。

今、部長からもありましたが、本日の説明会の開催結果についても、各中学校の各世帯、地域の町会・自治会にお配りする予定です。その他、市のホームページに掲載し、皆様に御確認いただけるようにしていきます。

それでは、以上をもちまして、「第3回金杉台中学校に関する地域説明会」を終了いたします。

本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。お忘れ物のないようにお帰りください。